

1. 理事会からのお知らせ

(1) 代表理事挨拶

TCER フェローおよび関係者の皆様方には、日頃より TCER の活動にご支援とご協力をいただきまして、心よりお礼申し上げます。一昨年 6 月に TCER 代表理事に就きまして、代表理事代理業務執行理事の祝迫得夫先生と会計・研究会担当業務執行理事の大橋和彦先生を中心として理事の先生方とともに、TCER の一層の発展と TCER におけるより良い研究環境の構築のために TCER の活動を推進しております。早いことにと 2 か月ほどで 2 年間の任期が終わることになります。皆様にご協力をいただきまして、心よりお礼申し上げます。

さて、現在、以下の事業を推進しております。第一に、NBER、CEPR、TCER が共同で開催する TRIO コンファレンスについて、2019 年度は「Financial System」をメインテーマにして東京大学で開催されました。報告論文は国際学術誌 *Journal of the Japanese and International Economies (JJIE)* に刊行されます。また、TCER と NBER が共催で、毎年開催する East Asian Seminar on Economics (EASE) が 2019 年度にはバンコクで「International Trade」をメインテーマとして開催されました。

第二に、TCER コンファレンス（旧逗子コンファレンス）については、旧逗子コンファレンスの伝統を受け継ぎ、2 年計画で共同研究を行い、商業出版を行う事業を行います。2017 年度から 2018 年度に進められた共同研究「EBPM の経済学：エビデンスに基づく政策立案の展望」の研究成果が 2020 年 2 月に東京大学出版会から出版されました。また、2019 年度から 2020 年度にかけては、「金融の『大転換』と日本の金融システムの未来」というテーマでプロジェクトが進んでいます。2020 年度にワークショップが開催され、その成果が 2021 年度に書籍として出版される予定です。

第三に、TCER=ERIA 出版事業では、ERIA（東アジア・アセアン経済研究センター）の委託を受け、木村福成慶應義塾大学教授と浦田秀次郎早稲田大学教授が中心となって「東アジアの経済統合」と題する 10 冊シリーズの書籍を出版する事業を進めています。2016 年度から毎年度に 1 冊ずつ刊行されてきました。2020 年度に 4 冊目の第 2 巻『アジア総合開発計画・物的インフラ整備』が出版される予定です。

トランプ大統領によって仕掛けられた米中貿易戦争などの政治的ショックに加えて、新たに新型コロナウイルスが中国を中心とするグローバル・サプライ・チェーンを通じてグローバル経済に影響を及ぼす可能性が高まっています。このように日本を含む世界経済において、経済以外の要因の様々な不確実性が経済を不安定化する様相が高まりつつあります。TCER は、引き続き、経済学のアプローチからグローバル経済及び日本経済が直面する諸課題及び経済政策による対応について、研究を行い、その研究成果を見聞として蓄積し、グローバル経済及び日本経済の問題解決に貢献することをめざして、活動していく所存でございます。皆様におかれましては、引き続き TCER の活動にご支

援、ご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

小川英治（代表理事・一橋大学）

（２）2019年度後半の理事会報告

2019年度第2回理事会は、2020年2月4日（火）15時00分～16時20分、東京経済研究センター事務所において開催されました。令和2年度の事業計画書及び令和2年度の予算書が承認されました。寄附者が用途を特定していない寄附金について、公益目的事業に要する経費に充てる割合、令和2年度投資方針書についても承認されました。評議員会の日時及び場所並びに目的である事項について原案が提示され承認されました。

また、6名の新規フェローの入会も承認されました。最後に、報告事項として、本年度の事業の執行状況について説明がありました。

（３）2019年度後半の評議員会報告

2019年度第2回評議員会は、2020年2月18日（火）10時30分～11時30分、如水会館で開催されました。令和2年度の事業計画書及び令和2年度の予算書が承認されました。

（４）所属先変更のご連絡のお願い

今年度中に所属先が変更になった方、新年度から変更になる方は、お手数をおかけしますが、TCER事務局（tcer@mbs.sphere.ne.jp）までご連絡下さい。また、メールアドレスの変更を希望なさるフェローも同様に事務局までご連絡ください。

必要事項は、氏名（フリガナ）、所属先、所属先住所（郵便番号）、電話番号、メールアドレスとなります。

（５）2020年度研究助成のお知らせ（フェロー以外も応募可能）

TCERでは、毎年、個人研究助成を行っています。日本国内の経済学研究者であれば、TCERフェローに限らずどなたでも応募することができます。本制度設立の趣旨：本研究助成制度は、TCERフェローを含む若手研究者の個人及び相互による経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することを目的としています。

応募資格：日本国内の大学および研究機関に所属する経済学研究者。ただし、同一テーマで過去3年以内に助成を受けた方（共同研究者である場合も含む）は応募できません。

助成対象期間：2020年4月～2021年3月

報告義務：2021年3月末までに所定の様式に従って研究成果報告書を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センターワーキング・ペーパーとしてまとめる。これはRePEcのTCERリサーチペーパーシリーズにも入ることになる。（なお研究成果の提出は2022年3月末まで延長できます。）

助成金額：1件当たり最高40万円

応募締め切り：2020年5月7日(木)午前9時

応募用紙：応募用紙 (<https://www.tcer.or.jp/> からダウンロード可) に入力し、Word ファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER 事務局 E メールアドレス (tcer@mbs.sphere.nc.jp)

(6) TCER の新 Web ページの URL と旧ページの停止予定のお知らせ

12月に実施したTCERのサーバーの更新作業に伴い、TCERのWebページは、セキュリティを強化した新サーバーに移行しました。新しいWebページのURLは、以下の通りです。

<https://www.tcer.or.jp>

現在は、まだ古いサーバーを維持しているため、古いページ (<http://tcer.or.jp>) へアクセスすると、新しいWebページに自動転送されます。しかし旧サーバーは3月中に運用を停止する予定ですので、それ以降、自動転送は行われなくなります。ついては、古いTCERのトップページのURLをブックマーク（お気に入り）に登録しておられる方がいらっしゃいましたら、上記の新しいトップページのURLに変更していただきますよう、お願いします。

2. コンファレンスご案内・報告

公1 国際的学術研究・交流事業

(1) 2019年度環太平洋地域研究交流事業（アジア危機コンファレンス）報告

2019年度環太平洋地域研究交流事業「アジア危機コンファレンス」は、2019年8月1日・2日に福岡大学七隈キャンパスで開催されたAPEAコンファレンスの一環として行われました。TCERは重要なスポンサーとして会合をサポートし、アジア環太平洋地域が抱える諸問題について、最近の理論分析の紹介や、国際貿易、国際金融、マクロ経済学、開発経済学などさまざまな観点から関連テーマに関して議論を行う場を提供しました。

コンファレンスには、アジア太平洋諸国の研究者を中心に世界各国から約100名の経済学者が参加し、多数の平行・セッションで重要な政策的課題を経済学の観点から活発に議論・研究交流が展開され、大変有益であった。TCERからは、代表理事の小川英治（一橋大学）をはじめ、福田慎一（東京大学）、櫻川昌哉（慶應義塾大学）、塩路悦

郎（一橋大学）、原田喜美枝（中央大学）、佐々木百合（明治学院大学）、玉井義郎（神奈川大学）、鯉淵賢（中央大学）、田中茉莉子（武蔵野大学）、慶田昌之（立正大学）、チャールズ・ホリオカ（神戸大学）、藤本純一（GRIPS）らが参加し、研究報告および討論を行うと同時に、各セッションの座長を担当しました。

Plenary Session では、南カリフォルニア大学の Joshua Aizenman 氏が“Inflation and Exchange Rate Targeting Challenges Under Fiscal Dominance”というテーマで、また韓国・高麗大学の Jong Wha Lee 氏が“Demographic Change, Human Capital, and Economic Growth in Korea”というテーマでそれぞれ招待講演を行いました。いずれも最近の世界経済が抱える現状を鋭く分析したもので、参加者から高い評価を受けました。

（２）2019年度TCER-NBER EASE30（第30回東アジアセミナー）報告

第30回東アジアセミナー（TCER, NBER、他共催）は、2019年6月6日・7日、バンコク（タイ）において、タイ中央銀行（Bank of Thailand）をローカルスポンサーとして、コンファレンス会場は Bank of Thailand 会議室で開催されました。本年度のテーマは、“International Trade”でした。米中貿易戦争が話題になるなかで、貿易論はタイムリーなトピックとなりました。

アン・クルーガー教授（Johns Hopkins University）が特別講演を行いました。また、日本（TCER 派遣）からは、伊藤匡（学習院大学）、小橋文子（青山学院大学）、浦田秀次郎（早稲田大学）、木村福成（慶応義塾大学）、早川和伸（アジア経済研究所）、大久保敏弘（慶応義塾大学）が論文執筆（共著を含む）・発表者として、伊藤恵子（中央大学）、清水順子（学習院大学）が討論者として、伊藤隆敏（コロンビア大学教授・政策研究大学院大学特別教授）が Andrew Rose との共同オーガナイザーとして参加しました。全部で13本の論文が提出され、活発な議論が展開されました。プログラムと発表論文の詳細は、下記 URL をご覧ください。

<https://papers.nber.org/sched/EASE19>

（３）2019年度日米欧研究交流事業（TRIO コンファレンス）報告

東京経済研究センター（TCER）は毎年、米国 NBER および欧州 CEPR と共催する形で、米国および欧州における著名な経済学研究者を毎年東京に招いて現代社会のホットイシューを報告・討論するコンファレンスを開催しています。本年度は、日本経済国際共同研究センター（CIRJE）、東京大学金融教育研究センター（CARF）および日本政策投資銀行のサポートを受けて、2019年7月27日（土）に東京大学小島コンファレンスルームで、全米経済研究所（NBER）、東京経済研究センター（TCER）、および欧州経済政策研究センター（CEPR）と共同で行う年次国際学術会議“28th NBER-TCER-CEPR conference (TRIO conference)”を開催しました。今回のテーマは、「金融システム“Financial

System”」で、世界的に広がりつつある金融を巡る新しい流れが金融システムに与える影響およびそれに関連した諸問題を議論しました。

コンファレンスには、トップクラスの研究者に加えて、日本国内の若手研究者にも参加してもらい、学術的・実務的観点から最近の金融のホットイシューを理論的・実証的に議論を深めることで、日本の金融研究のレベルアップにつながりました。また、金融を巡る新しい流れが金融システムに与える影響を議論することは、研究者だけでなく、政策担当者や実務家にとっても重要と考えられるため、コンファレンスの案内を、大学関係者だけでなく、政策当局者や実務家の方々に対しても CARF を通じて送り、議論に参加していただきました。学術的・実務的観点から最近の金融システムのホットイシューを理論的・実証的に議論が深められました。なお、報告論文は、レフェリーによる審査を経て、国際学術誌 *Journal of the Japanese and International Economies (JJIE)* に刊行予定です。オーガナイザーとプログラムは以下のとおりです。

オーガナイザー：植田健一（東京大学、TCER、CEPR）、福田慎一（東京大学、TCER）、星岳夫（スタンフォード大学、NBER）、Franklin Allen（ロンドン・インペリアルカレッジ、CEPR）

プログラム

Chair: Kenichi Ueda (University of Tokyo)

- 9:00 am Andreas Lehnert (Federal Reserve Board)
 "Inside the U.S. Strategy for Fighting the 2007–2009 Global Financial Crisis"
 (with Michael Barr, Neel Kashkari, and Phillip Swagel)
 Discussant: Shigenori Shiratsuka (Bank of Japan)
- 9:50 am Eugenio M. Cerutti (International Monetary Fund)
 "US vs. Euro Area: Who drives cross-border bank lending to EMs"
 Discussant: Junko Koeda (Japanese Ministry of Finance)
- 10:40 am Coffee Break

Chair: Shin-ichi Fukuda (The University of Tokyo)

- 10:50 am Edward S. Prescott (Federal Reserve Bank of Cleveland)
 "Banker Compensation and Bank Risk Taking: The Organizational
 Economics View"
 Discussant: Ryo Kato (Bank of Japan, University of Tokyo)
- 11:40 am Yoshiaki Ogura (Waseda University)

“Competition fragility view revisited: Evidence from a structural estimation of local lending markets” (tentative)

Discussant: Ying Xu (Australian Treasury)

12:20pm Lunch

Chair: Takeo Hoshi (Stanford University)

1:40 pm Rodney Ramcharan (University of Southern California)

“The Effects of Competition in Consumer Credit Markets”

(with Stefan Gissler and Edison Yu)

Discussant: Hiroshi Fujiki (Chuo University)

2:30 pm Kenichi Ueda (University of Tokyo)

“Listing and Institutions Around the World”

(with Somnath Sharma)

Discussant: Yishay Yafeh (Hebrew University)

3:20 pm Renée B. Adams (University of Oxford)

“Values in Finance”

Discussant: Ichiro Uesugi (Hitotsubashi University)

4:10 pm Coffee Break

Chair: Yishay Yafeh (Hebrew University)

4:20 pm Yukihiro Yasuda (Hitotsubashi University)

“Stock Market Listing, Investment, and Business Groups: How Firm Structure Impacts Investment?” (with Joseph French and Ryosuke Fujitani)

Discussant: Kaoru Hosono (Gakushuin University)

5:10 pm Jenny Corbett (Australian National University, University of Tokyo)

“Using Network Method to Measure Financial Integration”

Discussant: Daisuke Miyagawa (Hitotsubashi University)

6:00 pm Adjourn

公2 学術研究交流促進事業

(1) ミクロ経済分析事業 (2019年度 DC コンファレンスとの共同開催) 報告

第25回DCコンファレンスは、2019年10月11日(金)に大阪経済大学大隅キャンパスで開催され、14本の投稿論文報告と招待講演が行われました。菅谷拓生氏(スタ

ンフォード大学) による招待講演は、"Recent Developments in Community Enforcement" という題目で行われました。参加者数は約 50 名で、どの報告に対しても活発な議論が繰り広げられ、大変有意義なコンファレンスとなりました。プログラム委員は下記の先生方です。また、プログラムは次頁のとおりです。

プログラム委員：石川 竜一郎 (早稲田大学)、梶井 厚志 (京都大学)、清水 崇 (神戸大学)、関口 格 (京都大学)、十河 丈晴 (大阪経済大学・オーガナイザー)、橋本 和彦 (大阪経済大学・オーガナイザー)、宮川 敏治 (大阪経済大学・オーガナイザー)、室岡 健志 (大阪大学)

		【C51教室】 チェア：田村翔平（関西学院大学）	【C52教室】 チェア：善如悠介（神戸大学）
10:00-10:40 (40分)	Session 1	小松宏行（慶應義塾大学大学院） "A characterization of approval ranking"	大西一弘（大阪大学大学院修了） "Capacity choice in an international mixed triopoly"
10:40-11:20 (40分)		数村友也（東京工業大学） "Equal treatment of equals and strategy-proofness in object allocation with non-quasi-linear preferences"	難波敏彦（京都大学研究員） "A Theory of Quota Contract with Risk-Averse Agent"
11:20-12:00 (40分)		岩瀬祐介（東京大学大学院） "Nash implementation on the basis of general priorities"	渡邊直樹（慶應義塾大学） "Is Full Franchise Fee Advantageous?"
昼休み（80分）			
13:20-14:00 (40分)	Session 2	室岡健志（大阪大学） "Deception under Competitive Intermediation" 【C31教室】 チェア：宮川栄一（神戸大学）	
休憩（20分）			
		【C31教室】 チェア：若山琢磨（龍谷大学）	【C52教室】 チェア：無藤望（横浜国立大学）
14:20-15:00 (40分)	Session 3	多鹿智哉（北星学園大学） "Contribute once! Full efficiency in a dynamic contribution game"	細矢祐誉（中央大学） "Shephard's Lemma and Non-Smooth Integrability Theory"
15:00-15:40 (40分)		篠原隆介（法政大学） "Voluntary Participation in International Environmental Agreements in a Federation"	橋立洋祐（早稲田大学/日本学術振興会） "Preferences for Randomization and Indecisiveness Aversion"
15:40-16:20 (40分)		白田康洋（小樽商科大学） "A Merger Paradox: Proposal Right and Price Discrimination"	安達貴教（名古屋大学） "Output and Welfare Implications of Oligopolistic Third-Degree Price Discrimination"
休憩（20分）			
16:40-17:20 (40分)	Session 4	関口格（京都大学） "A Belief-Free Approach to Repeated Multimarket Contact under Private Monitoring" 【C31教室】 チェア：宮川敏治（大阪経済大学）	
休憩（10分）			
17:30-18:30 (60分)	招待講演	菅谷拓生（スタンフォード大学） "Recent Developments in Community Enforcement" 【C31教室】 司会：関口格（京都大学）	
移動			
19:00-	懇親会	懇親会（立食形式） 【D館8階】	

(2) マクロ経済分析事業 (2019年度 TCER マクロコンファレンス) 報告

第21回 TCER マクロコンファレンスは、2019年11月16、17日の2日間にわたり、大阪のホテル阪急エキスポパークで開催されました。多くの投稿論文から厳選された9本の論文が報告されました。研究テーマはそれぞれ、(1)マイナス金利が銀行と企業に与える影響、(2)日本におけるインフレ期待の形成メカニズム、(3)企業レベルの経済変数の予測に関する情報の硬直性、(4)国債の保有者の構成と長期金利の関係、(5)製品サイクルにまつわる価格サイクルのダイナミクス、(6)危機の前後における財のダイナミクス、(7)宇沢の定理の拡張と **Balanced Growth Path**、(8)労働世代の高齢化と賃金プロファイルの変化、(9)日本における TFP の Jカーブの9つでした。これらの研究発表を通じて、日本のマクロ経済環境に関する活発な議論が展開されました。プログラムは以下の通りです。

11月16日(土)

12:50 開場・受付開始

13:25 開会の辞 渡辺努 (東京大学)

第1セッション:

13:30-14:40 高橋耕史 (日本銀行)

“Credit Allocation and Real Effects of Negative Interest Rates: Micro-Evidence from Japan”

(井上仁, 中島清貴との共著)

討論者: 小野有人 (中央大学)

14:40-15:25 菊池淳一 (横浜市立大学修士課程 M1)

“The Formation of Inflation Expectations: Micro-data Evidence from Japan”

(中園善行との共著)

討論者なし

15:25-15:50 コーヒーブレイク

第2セッション:

15:50-17:00 服部孝洋 (財務省 財務総合政策研究所)

“Sources of Information Rigidity: Evidence from Japan”

(陳誠、宮本亘との共著)

討論者: 田中万理 (一橋大学)

17:00-18:10 松岡秀明 (世界銀行)

“‘Debt Intolerance’: Threshold of Level and Composition”

討論者：TBA

18:10- デイナーとディスカッション

11月17日(日)

第3セッション:

9:20-10:30 寺西勇生 (慶應義塾大学)

“Product Cycle and Prices: a Search Foundation”

(Mei Dong, 庄司俊章との共著)

討論者：浜野正樹 (早稲田大学)

10:30-11:40 松本英彦 (日本銀行)

“Productivity and Trade Dynamics in Sudden Stops”

(Felipe Benguria, Felipe Saffie との共著)

討論者：祝迫達郎 (大阪大学)

11:40-13:00 昼食とディスカッション

第4セッション:

13:00-14:10 堀井亮 (大阪大学)

“A Generalized Uzawa Theorem and Capital-Augmenting Technological Change”

(Gregory Casey との共著)

討論者：大津敬介 (慶應義塾大学)

14:10-14:55 井上俊克 (一橋大学大学院博士課 D1)

“The Effect of Aging on the Age-wage Profile”

討論者なし

14:55-15:20 コーヒーブレイク

第5セッション:

15:20-16:30 宮川努 (学習院大学)

“Does Productivity J-Curve Exist in Japan? -Empirical Studies Based on Multiple q theory-”

(外木好美、石川貴幸 との共著)

討論者：TBA

16:30 閉会の辞 敦賀貴之 (大阪大学)

(2) Econometric Society サマースクール 2019 報告

Econometric Society サマースクールは2019年8月6日から10日までの計5日間にわたって開催されました。Econometric Society (ES)は、1930年に発足した世界最大規模の経済学に関する国際学会であり、経済学における最も権威ある査読付き欧文学術雑誌のひとつである *Econometrica* を発行することでも知られています。会長を務めた Ariel Rubinstein テルアビブ大学・ニューヨーク大学教授、In-Koo Cho イリノイ大学教授（実質的責任者）などフェローを中心とする有志が、有望な若手大学院生を集めて指導を行うのが、ES サマースクールです。2013年以降、韓国、シンガポール、東京、京都などの各地で開催されてきましたが、2019年度は北海道大学で開催されました。

今年度は世界各地から過去最高の150名を超える大学院生の応募があり、その中から海外の大学30名、日本の大学14名の大学院生が選ばれました（その後各種事情での辞退者もあったため最終的な参加学生は、海外30名、日本11名）。講師は上記2名の他、フェローである Françoise Forges パリ大学教授と Debraj Ray ニューヨーク大学教授、まだ中堅でESフェローではありませんが、ノースウェスタン大学でフルプロフェッサーを務める著名な経済学者である Bruno Strulovici 教授でした。

Ariel Rubinstein 教授は、通常のマクロ経済学の選好の概念をさらに抽象化して、代数的に表現できない主観的選好体系でも表現できる新たな数学的概念を提案しました。

Debraj Ray 教授は aspiration（自分の状況と周りとの比較に基づく、こうありたいという水準（経済的なものだけではない）が、経済成長、分配、社会的対立（近隣諸国間の紛争）を説明する上で重要であることを、独自の理論的研究や、実証的研究を使って紹介しました。

Françoise Forges 教授は、不完備情報ゲーム（プレイヤー間で持っている情報に違いがあるゲーム）におけるゲーム理論モデルにおいて、お互いの（主に情報を持っている側の）行動からプレイヤー間でどのような情報がやり取りされ、それを踏まえてどのような均衡や利得が実現するかに関する（チープトークゲーム、シグナリング、ベイジアン説得、などの）ゲーム理論モデルの近年の進展について詳しく解説しました。

In-Koo Cho 教授は、人間の限界合理的な意思決定をどのようにモデル化してきたかについて Rubinstein 教授の automaton（自動機械）のアルゴリズムや神経ネットワークのモデルを、これまでのAIの研究の盛衰の歴史や自身の研究も踏まえて紹介し、最新の機械学習のアルゴリズムが、従来のAIの課題を解決してこの分野の研究を促進する可能性について解説しました。

Bruno Strulovici 教授は、社会がうまく機能するための警察などの捜査・取り締まり制度や司法制度の仕組みについて、自らの最新の不完備情報ゲームの理論モデルを使って、例えばエージェンシー問題への対策としての監視や調査のインセンティブをどう持たせるかという二重のエージェンシー問題や、無罪の人を罰したり有罪の人を罰せなかったりする可能性をできるだけ小さくするのはどのような司法制度か、という問題について

での分析を紹介しました。

5日の会期中、午前中は講師が二人ずつ90分の講演を計10回行い、午後は参加学生の中からさらに選抜された18名が各自の研究について研究発表を行い、参加者との質疑応答を行うとともに講師のアドバイスを受けるといった形式で行われました。この時間以外にも、講師と学生、学生同士で研究に関する議論が活発に行われました。5日間の共同生活のような学習経験を通して、学生同士、あるいは講師と学生との距離も縮まり、ESサマースクールは成功裏に終わりました。

(4) 『EBPMの経済学—エビデンスを重視した政策立案—』出版報告

TCER コンファレンス事業「EBPMの経済学、エビデンスに基づく政策立案の展望」共同研究（担当：大橋弘先生）は2017年度に始まりました。このたび、その研究成果が学と官との共同執筆の形で『EBPMの経済学—エビデンスを重視した政策立案—』としてとりまとめられ、東京大学出版会より2020年2月に公刊されました。

(5) 若手研究者育成支援事業（第4回金融ジュニア・ワークショップ） 開催延期のお知らせ

2020年3月30日（月）に開催を予定しておりました「第4回金融ジュニア・ワークショップ」は、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない現状を踏まえ、参加者の健康・安全面を第一に考慮した結果、開催延期を正式に決定しました。代替の開催日程につきましては、状況を見つつ、あらためてご連絡申し上げます。ご迷惑をおかけ致しますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

プログラム委員：祝迫得夫*・植杉威一郎・加納隆・熊本方雄*・塩路悦朗・安田行宏*
（*は実行委員を兼任）

(6) TCER 定例研究会（2019年度TCER研究会）報告

2019年度のTCER研究会は一橋大学にて行われ、今年度後半の開催は以下の通りでした。なお、TCER定例研究会にはフェローの方はいつでも参加できます。

第32回 8月2日（金）17：10～18：40

Yusuke Yamaguchi (Hitotsubashi University)

Coalition Formation and Bidding Mechanism: Semi-reversible Agreements

第33回 8月20日（火）17：10～18：40

Sophocles Mavroidis (University of Oxford and INET)

Identification at the Zero Lower Bound

第34回 9月17日（火）17：15～18：45

相馬 尚人 (日本銀行)

Model Uncertainty, Effective Lower Bound, and Optimal Inflation Target

第35回 9月20日(金) 17:15~18:45

Omrane Guedhami (University of South Carolina)

The Role of Creditor Rights on Capital Structure and Product Market Interactions:
International Evidence

第36回 9月24日(火) 17:10~18:40

星 岳雄 (東京大学)

The Great Disconnect: The Decoupling of Wage and Price Inflation in Japan

第37回 9月26日(木) 17:10~18:40

岡田 章 (一橋大学名誉教授)

A Non-Cooperative Decentralized Matching Game

第38回 9月27日(金) 17:10~18:40

小林 正宏、横谷 好 (住宅金融支援機構)

日本の住宅価格の分析~跛行する市場をどう評価するか

第39回 10月3日(木) 17:10~18:40

小井田 伸雄 (岩手県立大学)

Intransitive indifference with direction-dependent sensitivity

第40回 10月4日(金) 17:10~18:40

Pietro Peretto (Duke University)

Beyond "Through Scarcity to Prosperity: A Theory of the Transition to Sustainable Growth"

第41回 10月8日(火) 17:10~18:40

山田 憲 (京都大学)

ICT Capital-Skill Complementarity and Wage Inequality: Evidence from OECD Countries

第42回 10月10日(木) 17:15~18:45

折原 正訓 (筑波大学)

Family Firms' Dividend Policy: Evidence from a Japanese Tax Reform

第43回 10月15日(火) 17:10~18:40

Woong Yong Park (Seoul National University)

Cross-sectional Distribution of Price Stickiness and Inflation Stability (joint with Jae Won Lee)

第44回 10月17日(木) 17:15~18:45

Gregor Weiß (Leipzig University)

Innovating Banks and Local Lending

第45回 10月18日(金) 17:10~18:40

Ricardo Serrano-Padial (Drexel University)

Aggregative Games: Beliefs, Potential and Equilibrium Selection

第46回 10月21日(月) 16:00~17:30

荒田 映子 (慶應義塾大学)

協力ゲーム理論による会計基準分析—減価償却ゲーム

第47回 10月23日(水) 17:10~18:40

YiLi Chien (FRB of St.Louis)

TBA

第48回 10月24日(木) 16:00~17:30

室岡 健志 (大阪大学)

Deception under Competitive Intermediation

第49回 10月26日(土) 14:30~18:00

山本 裕一 (一橋大学 経済研究所)

Asymptotic Behavior of Bayesian Learners with Model Misspecification

尾崎 裕之 (慶應義塾大学 経済学部)

Sequential ε -Contamination with Learning

第50回 10月29日(火) 17:10~18:40

Yongsung Chang (Seoul National University)

How Sticky Wages in Existing Jobs Can Affect Hiring (joint with Mark Bills and Sun-Bin Kim)

第51回 10月30日(水) 12:00~13:30

中嶋 智之 (東京大学)

Optimal Taxation with Directed Search and Moral Hazard

第52回 10月31日(木) 17:15~18:45

湯山 智教 (東京大学)

ESG投資と信用格付け

第53回 11月5日(火) 17:10~18:40

石瀬 寛和 (大阪大学)

Nominal Exchange Rate Variability, Nominal Wage Rigidity, and the Pattern of Trade

第54回 11月11日(月) 16:00~17:30

内田 浩一 (一橋大学)

Ratchet effect and Slack-building on management earnings forecasts? Empirical analysis based on target ratcheting

第55回 11月12日(火) 17:10~18:40

青木 浩介 (東京大学)

Consumers' Price Beliefs, Central Bank Communication, and Inflation Dynamics (日本銀行 一上響、奥田達志と共著)

第56回 11月14日(木) 17:10~18:40

高梨 誠之 (京都大学)

Ex ante fairness and ex post fairness in social preferences under risk

第57回 11月14日(木) 17:15~18:45

鯉淵 賢 (中央大学)、後藤 瑞貴 (一橋大学大学院)

Cross-border Mergers and Acquired Business Performance

第58回 11月19日(火) 17:10~18:40

山田 知明 (明治大学)

Dimensions of Inequality in Japan: Distributions of Earnings, Income and Wealth between 1984 and 2014

第59回 11月25日(月) 16:00~17:30

佐久間 吉行 (一橋大学)

為替取引のクラスタ現象が指値注文の価格形成に与える影響の調査

第60回 11月26日(火) 17:10~18:40

Minchung Hsu (GRIPS)

Marriage, Fertility, and Female Labor Force Participation: Implications for the Shrinking Population in Japan

第61回 11月27日(水) 12:00~13:30

Aarti Singh (University of Sydney)

Estimating Household Consumption Insurance

第62回 12月2日(月) 16:00~17:30

阿萬 弘行 (関西学院大学)

企業情報が株式流動性に与える効果に関する実証分析

第63回 12月3日(火) 17:10~18:40

Ponpoje Porapakkarm (GRIPS)

The Lifetime Costs of Bad Health

第64回 12月4日(水) 12:30~14:00

梶田 脩斗 (日本経済研究センター)

A Pitfall of Interest on Excess Reserves: A Perspective of Fiscal-Monetary Interaction

第65回 12月5日(木) 16:30~18:00

平田 大祐 (一橋大学)

Stability, Strategy-Proofness, and Respecting-Improvements Properties

第66回 12月9日(月) 16:00~17:30

頭士 奈加子 (一橋大学)

日本の労使関係とコーポレートファイナンス

第67回 12月9日(月) 17:10~18:40

Xavier Ragot (Science Po)

Social preferences, and the optimal dynamics of public debt and taxes

第 68 回 12 月 10 日 (火) 17 : 10~18 : 40

Jay Hong (Seoul National University)

Income Volatility and Portfolio Choices

第 69 回 12 月 12 日 (木) 17 : 15~18 : 45

小野 有人 (中央大学)

The Effect of Physical Collateral and Personal Guarantees on Business Start-ups

第 70 回 12 月 13 日 (金) 17 : 10~18 : 40

David Cashin (Federal Reserve Board)

High-frequency Spending Responses to the Earned Income Tax Credit

第 71 回 12 月 17 日 (火) 17 : 10~18 : 40

西山 慎一 (京都大学)

Fertility, Education, and Economic Growth

第 72 回 12 月 19 日 (木) 17 : 10~18 : 40

Dan Qin (Tohoku University)

A general model of choice overload

第 73 回 12 月 23 日 (月) 16 : 00~17 : 30

Kentaro Asai (Australian National University)

Ownership Networks and Bid Rigging

第 74 回 12 月 24 日 (火) 14 : 00~15 : 30

Richard Lord (Montclair State University)

Why Do Firms Recapitalize: An Empirical Analysis

第 75 回 1 月 7 日 (火) 17 : 10~18 : 40

In Hwan Jo (National University of Singapore (NUS))

Firm Size and Business Cycles with Credit Shocks

第 76 回 1 月 10 日 (金) 17 : 00~18 : 40

Lei Yu-Hsiang (Yale NUS College)

Resource Windfall and Fiscal Policy: Evidence from Giant Oilfield Discoveries

第 77 回 1 月 16 日 (木) 17 : 10~18 : 40

Jeong-Yoo Kim (Kyung Hee University)

Proposing new equilibrium concepts in dynamic games with noisy signals

第 78 回 1 月 23 日 (木) 17 : 10~18 : 40

宇井 貴志 (一橋大学)

Information Geometry of Rational Inattention

第 79 回 1 月 23 日 (木) 17 : 15~18 : 45

Yoshie Saito Lord (Brooklyn College, The City University of New York)

T.B.A

第 80 回 2 月 28 日 (金) 17 : 10 ~ 18 : 40

東 陽一郎 (岡山大学)

Preference over menus and subjective dynamic consistency

編集後記

桜のつぼみも膨らんで春の訪れを告げていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。2019 年度 2 号目のニューズレターをお送りいたします。お忙しい中、ご執筆下さった理事やコンファレンス主催者の方々に感謝申し上げます。来年度も TCER をどうぞよろしくお願いたします。

Newsletter に関するご意見やご感想は代表理事 小川英治 eiji.ogawa@r.hit-u.ac.jp
または総務理事 原 ひろみ harahiromi@fc.jwu.ac.jp までご連絡下さい。

=====

公益財団法人 東京経済研究センター
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703 号室
Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp